

説明会記録

下伊那南部建設事務所

件名	平成26年度『信州のいい川づくりモデル事業』に伴う 中橋下流工区 工事説明会	※参考(前回) 第3回「遠山郷いい川づくり」推進会議 H26年6月25日
年月日	平成26年11月10日(月) 18:30~19:30	
場所	飯田市南信濃自治振興センター 会議室	
出席者	「遠山郷いい川づくり」推進会議：委員：13名(欠席者9名) オブザーバー：2名(欠席者3名) 事務局：下伊那南部建設事務所 鈴木整備課長、木下整備第一係長、高橋技師 池端工業(株)：遠山 孝夫(現場代理人)	
地域住民	出席者9名	
配付資料	別紙添付資料	
説明会の主旨	『信州のいい川づくりモデル事業』に伴い、平成26年度の第1期工事(中橋下流工区 帯工工事)の施工業者が決まり、工事着手することとなったため、工事の施工計画や工程に関することを主とした工事説明会を開催した。 合わせて今後の予定として、水制工の工事予定及び現地見学会の予定について説明を行った。	
説明内容	<p>1 あいさつ〈鈴木課長〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の推進会議の後、遠山川の取り組みについて中部地方整備局で発表を行い、優秀賞をいただいた。そのあと、関東地方整備局の発表でも賞をいただくなど、好評価をいただいている。それは、地元の皆様の意見を取り入れて行っていることが評価されている。ただ工事を行うということではなくて、地域の取り組みとして仕事をまとめていきたいと思うので今後もご協力をお願いしたい。 ・6月の推進会議では、予算の関係で帯工1/2基しかできないと説明したが、補正予算があり、遠山川でも予算が欲しいという強い要望をしたところ、まとまった予算が確保できた。 ・今年も現場見学会の開催を予定しておりますので引き続きご支援、ご協力をお願いしたい。 <p>2 平成26年度工事概要及び施工範囲について〈高橋技師〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遠山郷いい川づくりの施設設計について、どのような方針で計画を策定したか。中橋下流の施設設計の目的と今後の工事の優先順位、今年度工事の施工範囲について説明。 (別紙 資料1 PP) <p>3 施工計画、工程について〈遠山 孝夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事の具体的な施工計画、工程及び施工手順について説明。 (別紙 配布資料2・資料3PP) <p>4 今後の予定について〈高橋技師〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・追加工事の予定について、現在広告中の水制工工事の予定。現地見学(研修)会の予定について説明。 (別紙 資料4PP) <p>5 質疑・要望</p> <p>〈Q 後藤氏〉 基礎が露出している中橋の橋脚に石を積んでいただきたい。(要望)</p> <p>〈Q〉 かぐら大橋上流右岸側の護岸未整備区間について、工事で仮締切をして右岸側に水を</p>	
決定事項 検討事項 保留事項 等		

まわした際に、出水があると当区間が崩壊してしまうのではないかと。

〈A 高橋技師〉 仮設工施工時に護岸未整備区間に巨石を配置して保護するなど、崩壊しない対策を検討する。

〈Q 西森氏〉 設計の考え方について、床張工にウォータープールをつくる意味は。

〈A 高橋技師〉 瀬と淵など、多様な河川の環境を創出するための工夫である。

〈A 鈴木課長〉 治水面からは、帯工のような堅いものがあるとその下流が洗掘されてしまうことがよくあるが、ウォータープールをつくることで、クッションとなり洗掘の防止となる。

〈Q 山崎氏〉 右岸側の道の駅から川へ降りる施設(親水空間の整備)は今年度やるのか。

〈A 高橋技師〉 今年度は行わない。治水上必要な帯工、左岸の根固工や護岸の未整備区間の整備が終わったあとに行う予定である。

〈Q 山崎氏〉 それはいつになるのか。

〈A 木下係長〉 年次計画割どおりに予算を確保できる保証はないため、はっきりと何年にやるということとは言えない。中橋下流前後の整備で、優先順位的に何から手をつけていかなければいけないかという観点でみると、今の遠山川は、橋南地区側の根固ブロックをみれば、誰が見ても河床が下がっていることがわかり、特に中橋橋脚の基礎が顕著に露出している状況であることから、河床低下対策を優先して行いたい。

右岸側の親水空間の整備は、より河川に親しんでもらえるように行うものであり、優先順位は低いと考えられる。そのため、一番緊急的に行わなければいけない箇所から順次整備していきたい。

〈Q〉 帯工の整備により、予定ではどのくらい河床が上がるのか？

〈A 高橋技師〉 現在露出している中橋橋脚基礎の天端まで河床が上がるかと考えている。(現況河床から約 1.8m 上がる。)

〈Q〉 巨石の採取は柳瀬及び月の島から採取ということになっているが、巨石の量はそこからの採取で足りるのか。

〈A 高橋技師〉 巨石の数については現在現地調査している段階である。当初の考えでは近隣の柳瀬からの採取としているが、不足する場合は、遠山川の上下流や近隣の河川から採取することや、それでも不足する場合は購入することを考えている。

〈Q 西森氏〉 自然工法ということで行っているが、県として、今後経過を検証していくのか。(経年変化を観察したりしていくのか。)

〈A 木下補佐〉 地形の測量や観測は専門の方でないとできないし、お金もかかるため、そういうことをやっていくということになれば、県の方でやっていくことになると思う。

施設は必ずどこかで壊れたり修繕が必要になったりする。実際にこうやって考えたものが、1年、2年経って、出水を経験した後に、こういうところに欠陥があったということができたら、次の工事に前回の反省を活かしていくということはやっていきたい。

河床は中橋橋脚基礎の天端まで上がることを期待しているが、実際に上がったのかどうかということとは当然気になると思う。地域の方々が、日々河川を見ている中で気づいたことを、連絡していただくことはできると思うが、実際に高さがどう変わったのかということまでは一般の方には難しい。我々の方で計画を立てて作ったものが、どう変化しているのかということとは追っていききたいと思う。

考えたとおりになっていないければ、検証して次に活かすように考えていかなければい

けないと思う。

〈Q 佐藤氏〉 今年度の帯工だけでは、中橋下流の河床は上がらないと思う。
図では中橋と帯工の間に2基の帯工らしきものがあるが、最終的にこれは施工するのか。これくらいしないと河床は上がらないと思うがどうか。

〈A 高橋技師〉 基本的には帯工を施工すれば中橋橋脚基礎の天端まで河床は上がると考えているが、帯工から中橋までは距離が長く、また上がる河床も高いため、河床が上がるまでには時間がかかると考えている。そのため、まず帯工を施工し、その後河床の変化を観察し、河床が上がらないようであれば、中橋と帯工の間に巨石で組んだ沈床工を施工する。これは、巨石を組んで配置するもので、連結は行わない。流されても帯工の裏に堆積し、河床を安定させるというものである。

〈Q 後藤氏〉 石は松島橋の上下流にたくさんあるため、採取場所として検討してみてはいかがか。

〈A 高橋技師〉 参考にさせていただく。

〈Q 山崎氏〉 石材運搬ルート①(配布資料2 裏面 図-3 運搬経路図)を通っていただくのは大変ありがたい。ヘリポートから自治振興センターへ向かう間は、ニセアカシアがたくさん生えているので、和田水路組合でも工事にあわせて草刈りを実施し、環境整備に協力していきたいのでよろしくお願いいたします。

〈Q 西森氏〉 自治振興センターからヘリポートまで、作業道を整備することだが、道ができるとどうしても散歩道として利用してしまう人がでてきてしまう。特に朝晩や日曜日に散歩する人が多いが、作業道への一般の方の進入対策はどのように考えているのか。
(前回他の工事で仮設道路をつくったときは、散歩道になっていた。)

〈A 遠山孝夫〉 作業終了時に、単管パイプのバリケードを設置し、進入できないようにする。

〈遠山中学校横工区 現場代理人 遠山政廣(池端工業(株))お礼のあいさつ〉

皆様には遠山中学校横工区で非常にお世話になった。工事が終わって皆様にお礼を言っていなかったため、この場で言わせていただきたい。推進会議や説明会に出席して1年になったが、説明会や、現場見学会に来ていただいてとてもありがたかった。今年も現場見学会がありますので引き続きよろしくお願いいたします。